

2018年度 発達保障学校

~~~~~  
***SYLLABUS***  
~~~~~

(講義計画)

人間発達研究所

コース名 「入門の入門」コース	2018年度回数 全3日6コマ	担当者 坂本彩・高田智行・武居誠
授業の内容 <p>入職3年目くらいまでの職員が対象のコースです。乳幼児から成人期を対象とする方までグループ分けなどしながら学びあいます。</p> <p>目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。その力をつけるための入り口に立てることをめざします。若手職員が目の前のことでいっぱいになっている、でもそのことに意味があることを伝える、文字通り「入門の入門」コースです。</p>		
開講計画 <p>第1回 7月1日 9:30～16:30 オリエンテーション 講師自己紹介&参加者自己紹介 講義① 「発達を学んで？」 グループワーク 「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 講義② 「発達の理解を実践に生かすって？」 宿題① 「次回までにこんなことをしてみよう！」 宿題② 「気になるニュースを切り抜いてこよう」</p> <p>第2回 9月2日 (学校) 9:30～12:30 + (オプション企画) 13:30～16:30 9:30～12:30 グループワーク 「これをやってみよう！」をやってみてどうだったか「わかちあい」 実践報告 PICAGIP 壁新聞づくり 「私たちの仕事と社会のつながり」 宿題 「気になったニュースをさらに掘り下げて5分間レポートにまとめる」 グループワーク 「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 (オプション企画) 13:30～16:30 がっちり座学で発達を学ぼう。過去参加者フォロー企画。 公開講座です。過去の入門の入門コースの参加者にも同窓会のような形で声掛けします。同じような悩み、戸惑いをもった本コースの先輩参加者の「その後どうやった？」を共有しましょう。</p> <p>第3回 12月2日 9:30～16:30 ニュース掘り下げ5分間レポート発表 ミニ講義①「私たちの仕事と社会のつながり」 実践報告 PICAGIP ミニ講義②「実践報告を受けて」 最後のわかちあい「ワールドカフェ」</p>		
その他 <p>教育実践については、教員の参加が少なく、グループワークのテーマになりにくい状況です。</p>		

コース名 「個人の発達の系」概論コース	2018年度回数 全10日12コマ	担当者 中村隆一
<p>授業の内容</p> <p>【発達理解と歴史理解を得る】</p> <p>人間の発達を考える際の基本点は、発達の「これまで」を未来につなぐことにあり、その結節点が、発達の「今」である、ということになります。そして、「今」の姿の背景には、さまざまな歴史があり、この「個人の発達の系」概論コースでは、まず「個人の発達の系」に、さまざまな歴史のひかりもあてながら、発達について立体的に考えてみたいと思います。</p> <p>その一つは、生命が出現し人類の祖先が登場してきた進化という歴史です。また、人間が「発達」という現象に気づき、それを研究の対象にしてきたという人類の歴史にもふれます。あわせて、心理学の優生学・優生政策への関与の歴史やその過ちの克服の努力の歴史についても発達研究の歴史という形でふれます。</p> <p>【発達のすじ道を知る】</p> <p>人間の発達を支える体系としての発達保障論は、「ひとりの発達が万人の発達になるような」社会の実現とともに、ひとりひとりの発達を具体的に支える方法や技術を必要とします。そうした方法や技術の検討・再構成は、もっぱら支援者固有の専門性ですが、その場合に発達をとらえて内発的な根拠が把握されていることは、重要な意味があります。「啐啄（そつたく）」ということばがあります。雛（ひな）が卵からかえる時、卵の中にいる雛がからを中からつつく（その音が啐）ことと、親鳥が殻を食い破る（啄）とが一致して、雛鳥が殻から出てくることができるといいます。卵の殻の中の様子をつかんで支援する、これが発達のすじ道を知ることの重要な中身になります。</p> <p>具体的には、受精から9、10歳頃までの時期を述べようとしています。</p> <p>【発達認識の理論的理解と勘所（かんどころ）を学ぶ】</p> <p>同時に、支援者の日々の取り組みの中で、支援の方法や技術が深まるためには、その材料となるさまざまな記録がとても重要になります。その記録をつけるとは、行動や姿を「ことば」にすることですが、その「ことば」がゆたかになっていることが必要です。実際には、変化しようとしている姿であるのに、逆戻りの姿であったり静止した姿としか記録できないとすると、それは支援の方法や技術を検討する材料にはなりにくいのです（発達の理論的理解を得る）。</p> <p>さらに、支援は、人間同士のかかわり・やりとりの中で進んでいきます。ところが、私たちは、話し言葉でのやりとりになれきっているために、話し言葉が無い状態の人たちとのやりとりに戸惑いを感じることにありますが、そうした戸惑いにもできるだけ適切な対案を示したいと思っています（発達の時期ごとのやりとりのツボを知る）。</p> <p>以上3つの課題に迫ろうというのが、「個人の発達の系」概論コースです。</p> <p>具体的計画</p> <p>まず、冒頭の3～4回目までは、進化や人間の発達認識の深まりなど、歴史的な経過と発達研究における理論的なことがらを学びます。やや理屈っぽい内容ですが、可能な限りいろいろな教材をつかって、初心者の方にも興味を持っていただけるようにすすめます。</p> <p>後半は、受精から胎生期、乳児期前半、乳児期後半、幼児期と10歳頃までの発達のすじ道をたどります。ここでは、発達の各時期の特徴、それを裏付ける具体的な知見、を軸に述べます。特に、他者との関係のありようややりとりについて時間をかけたいと思います。</p> <p>すすめ方</p> <p>教材は、当日に配布する資料、スライド、VTR などです。スライドのHandoutなどは、</p>		

人間発達研究所のホームページの発達保障学校のコーナーにリンクがありますので講義前にダウンロードしていただくことも可能です。

インフォメーション

《質問について》

講義形式のコースですが、質問大歓迎です。メールでのご質問は下記専用メールアドレスにどうぞ（携帯電話のメールはうまく送受信ができない場合がありますのでご注意ください）。

質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com

《資料など》

講義では用意したスライドをもとに進めますがHandoutは印刷していません。このHand-outやレジュメ、講義の映像、音声はインターネットのサイトにアップロードしますのでご利用ください。

なお録画は、一旦ダウンロードをした上で再生が可能です。ご注意ください。

参考図書

田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）

中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013）希望者は割引価格（定価1700円が1200円）で購入できます。

コース名 発達保障実践論コース	2018年度回数 全10日10コマ	担当者 田村和宏
--------------------	----------------------	-------------

授業の内容

相談や教育や保育、高齢者や障害者を支える職場など、私たちの職場はより困難さを増してきています。

障害児者福祉の情勢を眺めてみると、コーディネーターによる相談機能の強化や緊急時の受け入れ対応・強化、体験機能の機能強化などが打ち出されたり、「障害児支援の適切なサービス提供体制の確保と質の向上」が提起されて、子どもに対しては前進面も多く見受けられます。一方で、定員20人の「ミニ入所施設」の容認、「自立生活援助」が新設されて、障害の軽い人たちは、一人暮らし支援という選ぶことのできない「安上がり」な方向が強められてきます。就労支援に関しても同じです。「就労継続支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行、就労定着の促進に向けた報酬の見直し」がされ、労働時間が長ければ長いほど単価が高い、平均工賃が高ければ高いほど報酬単価が高いしくみが持ち込まれています。

また、一般就労に向けて、「就労定着支援」という新しいサービスが加わりました。一億総活躍社会においては、集団での支え合いや協力の中でつけてくる力や、働くことにむけて働きたいと自らが願うための力を育む実践には見向きもしない方向へ突き進んでいます。

今日の社会がますます「生活しにくい」「生きる喜びが味わえない」ものになっているといえるのではないのでしょうか。こうしたときに、私たちも悩む日々になっているわけですが、私たちがよりよい実践をすすめていくためには、どういう視点や力量が求められるのでしょうか。そんなことを身近な実践を報告しながら考えていきませんか。

このコースは、これまで若手の実践者であったり、ベテランの管理者であったり、教員であったり、保育士であったり、支援員であったりと、多様な参加者で構成されることが続いています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから、最小公倍数的な内容を設定してきたところもあります。今年度は、実践と関わって学びたい参加者の要求をベースにしつつ、毎回の半分は講義、半分は「私の実践報告」「私の問題関心」「私の悩んでいること」「私の施設の方向性」などなど参加者発信の時間にして組み立てていきたいと考えています。

したがって場合によっては、経験年数によるグループ分けにして、あるいは要求によるテーマ別グループでというような小集団学習ですすめることもあります。とにかく柔軟に、みなさんの、今、実践現場でおこっている課題や問題や関心などに応えていけるようにしていきたいと考えています。

みなさんといっしょに作っていくコースになります。聞いているだけより、意見を出し合って元気をつくる、そんな時間としていきたいと思っています。

授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）

- 第 1回 6月 23日（土） pm（13時30分～16時30分）
- 第 2回 7月 28日（土） pm
- 第 3回 8月 25日（土） pm
- 第 4回 9月 15日（土） pm
- 第 5回 10月 20日（土） pm
- 第 6回 11月 24日（土） pm
- 第 7回 12月 22日（土） pm
- 第 8回 1月 19日（土） pm
- 第 9回 2月 23日（土） pm
- 第10回 3月 16日（土） pm

※なお、年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。

<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2018 年度回数 全10コマ+1コマ</p>	<p>担当者 荒木穂積</p>
<p>講義内容・テーマ</p> <p>本コースは、最近の乳幼児期の発達研究および基礎理論と田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習をすすめます。今年度は、昨年度の乳児期前半の階層（誕生から6・7か月）の学習を踏まえて乳児期後半の階層（6・7か月から1歳ごろ）の学習をすすめます。必要に応じて幼児期の階層も取り上げます。</p> <p>前半では、人間発達の基礎の学習をすすめていきます。今年度は、テキストとして藤野友紀『発達を学ぶ発達に学ぶ——誕生から6歳までの道すじをたどる——』（全障研出版部、2014）を学習します。</p> <p>後半の前期では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』」理論（『階層－段階』理論と略称）に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキスト『人間発達の科学』（青木書店）、『人間発達の理論』（青木書店）を学習します。</p> <p>後半の後期では田中昌人・杉恵らの『子どもの発達と診断：乳児期後半』（大月書店）および『乳児の発達診断入門』（大月書店）を学習します。</p> <p>本コースでは、エキストラとして夏期および冬期に自主学習および集中講義を計画します。人間の発達研究に大きな影響をあたえたと思われる研究者を取り上げ、直接その人の書いた著作を学習します(夏期)。また、その研究者の研究成果を集中講義で学びます(冬期)。今年度はロシアの心理学者レフ・セミョノヴィチヴィゴツキーを取り上げます。</p> <p>個人の発達の系概論コースを修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人等の参加を期待しています。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p>		
<p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論』の概要（解説）</p>		
<p>(1)可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか（テキスト1）</p>		
<p>第2-4回目：『発達を学ぶ発達に学ぶ——誕生から6歳までの道すじをたどる——』を学ぶ</p>		
<p>(1) 『発達を学ぶ 発達に学ぶ』の発達研究（その1）（テキスト2：第1章・第2章）</p>		
<p>(2) 『発達を学ぶ 発達に学ぶ』の発達研究（その2）（テキスト2：第3章）</p>		
<p>(3) 『発達を学ぶ 発達に学ぶ』の発達研究（その3）（テキスト2：第4章・第5章）</p>		
<p>第5-7回目：『階層－段階』理論を学ぶ</p>		
<p>(1) 発達の弁証法における矛盾（テキスト3，第Ⅱ部第2章）</p>		
<p>(2) 発達における可逆操作について（テキスト3，第Ⅱ部第3章）</p>		
<p>(3) 発達における対称性原理について（テキスト4，第4章）</p>		
<p>第8-10回目：乳児期後半（連結可逆操作）の階層：6・7か月から1歳ごろ</p>		
<p>(1) 3つの発達の質的転換期（テキスト5,6）</p>		
<p>(2) 生後第2の新しい力の誕生（テキスト5，6）</p>		
<p>(3) 階層間の移行と飛躍（テキスト5，6）</p>		
<p>第11回目：乳児期後半の発達の階層（回転可逆操作期の階層）振り返り：6・7か月から1歳ごろ</p>		
<p>テキスト</p>		
<p>(1) 田中昌人『発達研究の志』あいゆびい（発行）、萌文社（発売）、1996</p>		

- (2) 藤野友紀『発達を学ぶ 発達に学ぶ——誕生から6歳までの道すじをたどる——』(全
障研出版部,2014)
- (3) 田中昌人『人間発達の科学』(青木書店)
- (4) 田中昌人『人間発達の理論』(青木書店)
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期後半(2巻), (大月書
店)
- (6) 田中昌人『乳児の発達診断入門』(大月書店)

参考書・ビデオなど

- (1) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』(1~8巻) DVD版, 大月書店
- (2) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にみる子どもたち』(1~6巻) DVD版, 大月書店
- (3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期前半(1巻), 大月書店
- (4) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』乳児期後半(2巻), 大月書店
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅰ(3巻), 大月書店
- (6) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期Ⅱ(4巻), 大月書店
- (7) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の大学生たち——戦後激動の「改革期」を生
きる——』(クリエイツかもがわ, 2005)
- (8) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の若き旅立ち——教育・研究・生活——』(ク
リエイツかもがわ, 2006)
- (9) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻——田中昌人の研究を引き
継ぐ——』(クリエイツかもがわ, 2007)
- (10) ヴィゴツキー(著)・柴田義松(訳)『新 児童心理学講義』(新読書社,2002)
- (11) ヴィゴツキー(著)・柴田義松・宮坂瑛子(訳)『ヴィゴツキー教育心理学講義』(新
読書社,2005)
- (12) ヴィゴツキー(著)・柴田義松・宮坂瑛子(訳)『ヴィゴツキー障害児・発達論集』(新
読書社,2006)
- (13) 中村和夫『ヴィゴツキー心理学完全読本——「最近接発達の領域」と「内言」の
概念を読み解く——』(新読書社,2004)

その他

本コースは、レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや映画など
視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中でテキストの他に関連文献
や資料を適宜紹介・配布する予定です。

<p>コース名 発達診断方法論コース</p>	<p>2018 年度回数 全6日6コマ</p>	<p>担当者 中村隆一</p>
<p>授業の概要</p> <p>方法論コースでは、実際に発達診断に従事しようとする（あるいは、現にしている）人々を対象にしています。受講にあたって、発達保障学校個人の発達の系概論コース、基礎理論コースなどを受講しておられると内容が分かりやすいと思います。</p> <p>主として発達の階層－段階理論に拠りつつ「発達認識の方法論」（実際の診断手技という意味での「方法」とはちがいます）という観点から、次のような柱を想定し、その中でいくつかを選択して学びます。</p> <p>発達診断の主な目的はいうまでもなく一人ひとりの発達の状態の理解にあります。それを実証的にすすめることは、ますます重要になっています。そのためには、日々進歩している研究上の新しい知見を反映していると同時に、具体的な手続きにおける妥当性も欠かせません。同時に、発達診断は、発達臨床としての側面を持っていますから、その手続きや方法も個別性において妥当性が問われます。いいかえると、発達の姿をそのひとを援助するために、どのように把握し提示しうるのかが問われています。</p> <p>現実の発達診断では、仮説を設定し、その検証手続きを吟味し、その結果を評価し、発達の状態について総合的な評価をおこなう、ということになります。この一連の過程について方法論という面から深めます。</p> <p>おおまかには下記のような内容を想定していますが、受講者にあわせて毎年異なっていますので目安としてご理解ください。</p>		
<p>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回：発達の階層－段階理論と発達診断</p> <p>ここでは、発達の階層－段階理論が着想され発展してきた経過も念頭において、</p> <p>①発達検査・知能検査の意味と限界点（1905年にビネーの開発した知的水準の診断法1の論文、ビネー「新しい児童観」1911 など）</p> <p>②③発達の階層－段階理論の概要（主として「静かな法則性」と言われるレベルまで）。</p> <p>第2回：発達診断における仮説と検証</p> <p>①生育歴、主訴から発達診断における仮説に</p> <p>②知能検査・発達検査下位項目以外の着目点の例示</p> <p>③発達相談結果記録</p> <p>第3以降：次元可逆操作の各時期の発達診断下位項目</p> <p>1 次元可逆操作・2次元形成期</p> <p>2 次元可逆操作・3次元形成期</p> <p>3 次元可逆操作</p> <p>1 次元変換可逆操作</p>		
<p>質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com</p> <p>テキスト 中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013-2）</p> <p>参考図書 『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）</p>		

<p>コース名 実践にいきる記録の書き方講座</p>	<p>2018年度回数 全3日5コマ</p>	<p>担当者 富井奈菜実・竹澤清</p>
<p>目的</p> <p>実践記録は「客観的事実を正確に書き写した」ものではない。そこには子どもや仲間の多様な姿や実践に込められた実践者の思いが綴られている。実践記録を書くことによって、私たちは子どもや仲間たちの姿に潜んだ思いを発見することができ、そこで繰り広げられた実践の意図を深く自覚することになる。それは、次なる実践の方向性を定めることにも繋がる重要なプロセスでもある。</p> <p>とはいえ、実践記録を書こうとするとき、そもそもどんな実践について書けばよいのか、題材選びから悩むことになる。まず大切になるのは実践を通して見せる子どもの姿に実践者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことである。さらに、その姿や場面をどのように表現するのか、目にした現象を実践者なりの“言葉”で語る力が必要になる。</p> <p>本講座では実践記録を書く上で必要となる「子どもや仲間の姿の見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていくとともに、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのかについて学ぶことを目的とする。</p>		
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもや仲間の姿について多様な見方、考え方を発見する 2. 子どもや仲間の姿や取り組みを表現する自分なりの“言葉”を見つける 3. 自分の実践の中から、方向性を選んで文章化できる 4. 実践記録から自らの実践の意義や課題を確かめることができる 		
<p>授業計画（内容と方法）</p> <p><1日目（1, 2コマ）> 全日（担当：富井他）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 映像を視聴して、グループディスカッションをおこなう <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォームアップ ・ 子どもや仲間の姿について多様な見方、考え方があることを知る ② 実践記録につなげるための事例検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団で気づいたことを出し合う、好きなことを言い合うことの楽しさを味わう ・ 自分たちの実践を言葉にしなが、子どもや仲間の姿、実践の面白さを発見する ・ 出てきた多様な意見から、実践記録に向けて、どれをどのような方向性として取りだしていくのか考える（基準、意図性、テーマなどを絞っていく） <p><2日目（3, 4コマ）> 全日（担当：竹澤）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実践記録をいくつか読んでみる ② 実践記録を書く上での課題を考える <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践の方向性 ・ 事実の切り取り方…事実とデータの区別 ・ 意味づけ…集団の力を借りる、分かる・分かりやすい実践記録とは ・ 表記・記述…どう伝えるといいのか ③ 具体的な書き方を知る <p><3日目（5コマ）> 半日（担当：富井他）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 希望者に実践記録を書いてきてもらう ② 実践記録の読み合わせを行う 		

- ・ 記述の仕方、表現方法について感想を出し合う
- ・ 実践自体の大切さについても議論する

コース名 研究科	2018年10月～ 2020年10月	担当者 渡部昭男・田村和宏
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>発達保障学校のコースを1コース以上受講した方が対象です。研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。メールと面談（スクーリング、2年で6回程度）で研究の計画策定と推進を支援します。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>開校式 指導教員（正・副）の委嘱、2年間のスケジュールの内定</p> <p>計画発表会（6か月目）</p> <p>中間発表会（12か月目）</p> <p>予備論文発表会（18か月目）</p> <p>査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）</p> <p>査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。研究科の申し込み締め切りは9月末です。</p>		

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>
